

大学教育にふさわしい新たな「シミュレーション看護教育プログラム」の開発

織井優貴子¹⁾、池上敬一²⁾、鈴木克明³⁾、藤田あけみ⁴⁾

1) 青森県立保健大学大学院健康科学研究科、2) 獨協医科大学越谷病院、
3) 熊本大学大学院社会文化科学研究科、4) 青森県立保健大学

Key Words ①シミュレーション医療教育 ②高度再現度シミュレータ
③インストラクションデザイン ④看護基礎教育 ⑤看護教育プログラム

I. はじめに

質の高い看護教育として「シミュレーション看護教育」は海外では積極的に導入されている。韓国では、シミュレーション看護教育が実習教育の単位の一部として認められており、韓国政府もシミュレーション教育を予算化し看護実践力を強化している。この背景には、「医療安全 (Patient Safety)」が高く掲げられている。すなわち、高度化・複雑化する医療のなかで、質の高い安全な医療の実践家養成のための手段として「シミュレーション看護教育」が重視されており、2012 年より看護教育が 4 年生に改革される韓国においては、看護実践能力の向上のために必要な知識・技術だけでなく、[non-technical-skill]能力向上が強化されている。

II. 目的

本研究の目的は、教授設計の方法としての「インストラクションシステムデザイン」を用い、大学教育にふさわしい新たな教育プログラムとして「シミュレーション看護教育プログラム」を開発することを目的とする。

III. 研究の経過

1. シナリオを用いた教育の展開

1) 米国看護連盟 (NLN) で推奨しているシミュレーションデザインテンプレートを参考に日本語版シミュレーションデザインテンプレートを作成する。

2) 看護学生を対象とした「大腸がん手術を受けた患者の観察」を ARCS モデルを用いたインストラクションデザインで検討する。「学習意欲を促進」するための学習者分析に基づいた教材分析(開発)とし、目的に沿った教材としてのシミュレータを吟味したうえで、作成したプログラムを検証する。

IV. 結果および考察

看護学生 10 名、臨床看護師 10 名を対象としておこなったパイロットスタディで、「シミュレーションデザインスケール」を用いた評価 (5 段階) では、平均値 4.3 であり、課題達成感、満足感は得られていた。今後は、シミュレーション看護教育プログラムとしてシナリオをベースとした教育プログラムのデータを集積し、教育効果評価として国内外に誌上発表する事が課題である。

VI. 文献

1) John M. Keller: Motivational Design for Learning and Performance. The ARCS Model approach. Springer, 2010

2) Walter Dick, Low Carey, James O Carey: The Systematic Design of instruction. Fifth edition. Allyn & Bacon, 2001

Ⅶ. 発表 (誌上発表、学会発表)

1. 誌上発表

1) 原著:

(1) Orii Y: Developing post-operative assessment skills in Japanese undergraduate nursing students using high-fidelity simulator(Sim Man) – A pilot study. An International Journal of Halla/Newcastle PBL center. (a tentative title), in Press

2. 一般発表など

1) 学会発表

(国外)

Orii Y., Fujita A¹: A trial of Developing Post operative Assessment Skills of Undergraduate Nursing Students with Using High-fidelity Simulator(Sim Man[®]) before Clinical Practice in Japan, SANDIEGO,USA, 2012, Jan.28-1st.Feb.

1) 講演等

(国外)

1. Orii Y. (招聘講演): A Trial of the simulation based nursing education using Instruction System Design. The 5th Halla/Newcastle PBL Center INTERNATIONAL SYMPOSIUM CHEJU HALLA CALLEGE, KORIA, 2011.10 (韓国, 済州)

2 Orii Y.: (シンポジスト)「日本におけるシミュレーション看護教育の現状と課題」. The 5 th Halla/Newcastle PBL Center INTERNATIONAL SYMPOSIUM CHEJU HALLA CALLEGE, KORIA, 2010.12 (韓国, 済州)

(国内)

1. 織井優貴子: APMSH ; Asia-Pacific Meeting On Simulation In Healthcare , May 12-22, 2011 Report. 第7回 Sun Meeting. レールダルメディカルジャパン 主催, 2011.7.2(東京)

2. 織井優貴子: がん化学療法看護認定看護師を対象とした Oncologic Emergency 研修会企画ー I S D の活用ー. I S D (Instructional System Design)事例研究会 日本医療教授システム学会 (ISISH) 主催 2011 10 (東京都RMJ).

3. 織井優貴子: がん化学療法看護認定看護師を対象とした Oncologic Emergency 研修会企画ー I S D の活用ー, その展開方法. I S D (Instructional System Design)事例研究会 日本医療教授システム学会 (ISISH) 主催。 2012 1 (東京慈恵会医科大学).

4. 織井優貴子: 「看護師を対象とした研修企画: I S D の活用と展開ーがん化学療法看護認定看護師を対象とした Oncologic Emergency 研修会企画」. ラウンドテーブルディスカッション ファシリテータ, 第4回日本医療教授システム学会総会, 2012.3 (東京)

5. 織井優貴子: 「あした、夢、咲く・・・ナースのたまごからプロフェッショナルまで『高性能モデル人形』で拓がる、繋がる〜」. 平成23年度公開講座 基本テーマ「生活と健康」. メディアに取り上げられた研究活動. 青森県立保健大学 2011年7月(青森)